

平成 26 年 12 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



平成 26 年 7 月 25 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 3053 URL http://www.pepper-fs.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務人事部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210
 四半期報告書提出予定日 平成 26 年 7 月 25 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成 26 年 12 月期第 2 四半期の業績 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26 年 12 月期第 2 四半期	3,583	32.6	158	30.9	156	25.6	117	44.8
25 年 12 月期第 2 四半期	2,701	6.5	121	330.2	124	865.7	81	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26 年 12 月期第 2 四半期	40.83	40.26
25 年 12 月期第 2 四半期	28.59	28.41

(注) 平成 25 年 7 月 1 日効力発生日として 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26 年 12 月期第 2 四半期	2,641	581	22.0
25 年 12 月期	2,318	462	19.9

(参考) 自己資本 26 年 12 月期第 2 四半期 581 百万円 25 年 12 月期 460 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26 年 12 月期	—	0.00	—	—	—
26 年 12 月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 平成 26 年 12 月期の期末配当につきましては未定です。

3. 平成 26 年 12 月期の業績予想 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,234	62.4	572	180.4	564	168.9	448	195.5	155.41

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年12月期2Q	2,884,400株	25年12月期	2,877,300株
26年12月期2Q	一株	25年12月期	一株
26年12月期2Q	2,881,000株	25年12月期2Q	2,840,918株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 平成 25 年 7 月 1 日を効力発生日として 1 株 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融政策の効果もあり、企業収益が改善し、緩やかな景気回復の流れが続き、雇用情勢は着実に改善しております。個人消費におきましては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による影響があったものの、徐々に持ち直しの兆候が見られてまいりました。

外食産業におきましては、当初商業施設内店舗で消費税増税の影響が見られたものの、外食需要は堅調に推移し、売上は引き続き好調となりました。

こうした状況のもと、当社は「足元固め、手堅く、大胆なる飛躍」を基本方針として、既存店の売上高増大に全社一丸となって取り組むとともに規模の拡大を図るために新規業態の更なる出店を目指してまいりました。また、引き続きお客様への安心・安全な商品提供に努めてまいりました。

このような中、全社既存店売上は、昨年対比を上回り好調に推移しており、また、「いきなり！ステーキ」、「牛たん仙台なとり」等新規店舗は、オープン以来から多くのお客様のご支持をいただき売上高も顕著に推移いたしました。

これらの結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高3,583百万円（前年同期比32.6%増）、営業利益158百万円（前年同期比30.9%増）、経常利益156百万円（前年同期比25.6%増）、四半期純利益117百万円（前年同期比44.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、食材価格の高騰により、4月にワイルドジューシーカットステーキ等、一部商品の値上げを実施しました。また、一部店舗を除いた「脱券売機」とする券売機からのレジへの移行を完了し、当累計期間の既存店売上昨年対比は109.6%となり、好調に推移しております。6月には、5年ぶりの路面店となるペッパーランチ横浜天理ビル店をオープンしました。

「92's（クニズ）」は、4月にイオンモール堺北花田店をオープンし、計12店舗となりました。

海外におけるペッパーランチ事業では引き続き新規出店と既存店の運営管理に力を入れてまいりました。

しかしながら、タイにおける政治情勢の不安により予定されていた機器販売が行えず、中国地区では、既存店売上の低迷によりロイヤリティ収入が減少したことにより新規出店に伴う加盟金収入及び機器等の売却、ロイヤリティ収入などの売上高は113百万円（前年同期比21.4%減）となりました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,219百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は347百万円（前年同期比0.4%増）となりました。また、新規出店数は22店舗（うち海外14店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は304店舗となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、「いきなり！ステーキ」の4号店となる渋谷桜丘店が6月にオープンし、既にオープンしている3店舗とともにお客様からの高い支持を頂く中、テレビ、新聞などのメディアに多く取り上げて頂き、当初の予測を大きく上回る売上高となりました。また、「いきなり！ステーキ」の出店を加速する方針を固め、年内30店舗出店に向けたプロジェクトを発足させました。

牛たん業態「牛たん仙台なとり」は、5月にアリオ蘇我店がオープンし、合計7店舗となり全ての店舗が予測を上回る売上高となっております。

「ステーキくに」に関しては、ペッパーランチ同様4月に一部商品の値上げを実施いたしましたが、影響はなく売上は昨年を大きく上回る結果となりました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は1,348百万円（前年同期比119.0%増）、営業利益は94百万円（前年同期比341.4%増）となりました。また、新規出店数は8店舗であり、レストラン事業全体の店舗数は24店舗となっております。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」、「冷凍ペッパーライス」及び「冷凍ハンバーグ」の販売において新規顧客の獲得目指し、ネット販売を中心に行ってまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は14百万円（前年同期比12.9%増）、営業損失は1百万円（前年同期は3百万円の営業損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて323百万円増加し2,641百万円となりました。これは主に、現金及び預金が164百万円増加したこと、売掛金が75百万円減少したこと、建物(純額)が188百万円増加したこと並びに敷金及び保証金が33百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて203百万円増加し、2,059百万円となりました。これは主に、買掛金が77百万円増加したこと、借入金が130百万円増加したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて119百万円増加し、581百万円となりました。これは主に、第29期定時株主総会にて資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議したこと、四半期純利益を117百万円計上したことなどにより、資本剰余金が673百万円減少及び利益剰余金が793百万円増加したことによるものです。また、自己資本比率は前事業年度末に比べて2.1ポイント増加して22.0%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べて164百万円増加し693百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、404百万円（前年同期は123百万円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益を153百万円計上したこと、減価償却費を64百万円計上したこと、売上債権が73百万円減少したこと、仕入債務が77百万円増加したこと及び法人税等を41百万円支払ったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、351百万円（前年同期は5百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得により298百万円の支出があったこと、敷金及び保証金の差入により62百万円の支出があったこと並びに敷金及び保証金の回収により28百万円の収入があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は、111百万円（前年同期は45百万円の獲得）となりました。これは、主に短期借入金が51百万円減少したこと、長期借入れにより245百万円の収入があったこと、長期借入金の返済により64百万円の支出があったこと及び社債を21百万円償還したことによるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年7月11日に発表いたしました通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。詳しくは平成26年7月11日付「業績予想の修正に関するお知らせ」を御参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	569,930	734,598
売掛金	325,194	249,387
商品	28,941	24,348
貯蔵品	20,558	20,844
繰延税金資産	25,000	25,000
その他	181,436	162,683
貸倒引当金	△4,614	△6,860
流動資産合計	1,146,447	1,210,002
固定資産		
有形固定資産		
建物	765,114	973,263
減価償却累計額	△355,516	△375,385
建物（純額）	409,598	597,878
その他	519,965	561,916
減価償却累計額	△395,998	△405,528
その他（純額）	123,967	156,388
有形固定資産合計	533,565	754,266
無形固定資産	65,113	62,566
投資その他の資産		
敷金及び保証金	540,946	574,547
その他	49,755	55,153
貸倒引当金	△18,181	△15,448
投資その他の資産合計	572,520	614,252
固定資産合計	1,171,198	1,431,085
繰延資産		
社債発行費	532	274
繰延資産合計	532	274
資産合計	2,318,178	2,641,363

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	517,949	594,994
短期借入金	96,800	45,598
1年内返済予定の長期借入金	111,600	173,222
未払金	193,667	185,719
未払法人税等	38,093	27,298
役員賞与引当金	3,700	—
資産除去債務	1,687	985
その他	175,118	225,369
流動負債合計	1,138,615	1,253,186
固定負債		
社債	40,800	19,200
長期借入金	324,400	444,132
受入保証金	274,496	262,296
繰延税金負債	8,875	12,940
資産除去債務	48,065	56,719
その他	20,750	11,322
固定負債合計	717,388	806,610
負債合計	1,856,003	2,059,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	719,486	721,681
資本剰余金	676,043	2,194
利益剰余金	△938,672	△144,993
株主資本合計	456,857	578,882
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,310	2,311
評価・換算差額等合計	3,310	2,311
新株予約権	2,006	372
純資産合計	462,174	581,566
負債純資産合計	2,318,178	2,641,363

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	2,701,431	3,583,150
売上原価	1,307,653	1,746,659
売上総利益	1,393,778	1,836,491
販売費及び一般管理費	1,272,587	1,677,862
営業利益	121,190	158,628
営業外収益		
受取利息	91	79
受取配当金	53	63
受取賃貸料	2,593	2,594
協賛金収入	5,008	3,934
その他	374	666
営業外収益合計	8,122	7,337
営業外費用		
支払利息	1,017	4,481
社債利息	1,028	621
その他	2,531	4,198
営業外費用合計	4,577	9,302
経常利益	124,735	156,663
特別利益		
固定資産売却益	2,027	—
新株予約権戻入益	—	497
特別利益合計	2,027	497
特別損失		
固定資産売却損	—	759
固定資産除却損	1,773	1,131
減損損失	11,518	2,087
訴訟関連損失	5,838	—
特別損失合計	19,129	3,979
税引前四半期純利益	107,633	153,181
法人税、住民税及び事業税	26,493	30,928
法人税等調整額	△84	4,617
法人税等合計	26,409	35,545
四半期純利益	81,223	117,636

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	107,633	153,181
減価償却費	39,295	64,562
減損損失	11,518	2,087
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,848	△487
受取利息及び受取配当金	△145	△142
支払利息	2,046	5,103
有形固定資産売却損益(△は益)	△2,027	759
売上債権の増減額(△は増加)	33,587	73,357
たな卸資産の増減額(△は増加)	5,752	4,213
仕入債務の増減額(△は減少)	△36,389	77,044
未払金の増減額(△は減少)	6,274	3,878
その他	3,843	67,809
小計	169,539	451,369
利息及び配当金の受取額	145	142
利息の支払額	△2,258	△5,271
法人税等の支払額	△44,315	△41,548
営業活動によるキャッシュ・フロー	123,110	404,692
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△33,872	△298,243
有形固定資産の売却による収入	13,000	1,574
無形固定資産の取得による支出	△45,113	△1,198
子会社株式の取得による支出	—	△10,296
敷金及び保証金の差入による支出	△9,900	△62,358
敷金及び保証金の回収による収入	77,871	28,728
預り保証金の返還による支出	△14,898	△23,300
預り保証金の受入による収入	11,800	11,100
その他	△4,031	2,164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,144	△351,829
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	70,900	△51,202
長期借入れによる収入	—	245,600
長期借入金の返済による支出	—	△64,246
社債の償還による支出	△21,600	△21,600
株式の発行による収入	6,320	3,251
担保預金の預入による支出	△10,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	45,620	111,803
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	163,585	164,667
現金及び現金同等物の期首残高	79,669	529,235
現金及び現金同等物の四半期末残高	243,255	693,903

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第2四半期累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日）

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間（自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日）

平成26年2月14日開催の取締役会において、平成26年3月26日開催の定時株主総会に、次のとおり資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について付議することを決議し、同定時株主総会にて承認可決されました。

（1）資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として資本準備金の額を減少し、欠損填補に充て早期復配体制の実現を目指すものであります。

（2）資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額

資本準備金 676,043千円

増加する剰余金の額

その他資本剰余金 676,043千円

（3）剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額

その他資本剰余金 676,043千円

増加する剰余金の額

繰越利益剰余金 676,043千円

上記の結果、当第2四半期累計期間において資本剰余金が676,043千円減少し、利益剰余金が676,043千円増加しております。なお、当第2四半期会計期間末においては資本剰余金2,194千円及び利益剰余金が△144,993千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	2,072,523	615,870	13,037	2,701,431	—	2,701,431
計	2,072,523	615,870	13,037	2,701,431	—	2,701,431
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	345,848	21,465	△3,450	363,863	△242,673	121,190

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△242,673千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」及び「レストラン事業」において、当第2四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては「ペッパーランチ事業」10,210千円、「レストラン事業」1,308千円であります。

当第2四半期累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	2,219,960	1,348,475	14,715	3,583,150	—	3,583,150
計	2,219,960	1,348,475	14,715	3,583,150	—	3,583,150
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	347,359	94,748	△1,718	440,388	△281,759	158,628

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△281,759千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」において、当第2四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては2,087千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はこれまで炭焼ハンバーグステーキにのセグメント区分を「レストラン事業」としておりましたが、第1四半期会計期間の組織変更に伴い、「ペッパーランチ事業」に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載しております。